

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針

- 人格の完成をめざし、個性豊かな人間を育成する。

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
- 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
- 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感・充実感を味わえる学校づくり）

育てたい生徒像 “3つのC”

- 創造的な人間（Creation） 基礎学力を身につけ、個性豊かで創造的な人間
- 信頼される人間（Confidence） 規律やマナーを身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
- チャレンジする人間（Challenge） 健やかな体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路指導の充実

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、特色づくりを推進する教育課程を編成・実施する。
 - ア 生徒の実態を踏まえ、保護者・生徒の希望する進路がより実現できる（出口のみえる）教育課程を編成・実施する。
 - イ 保育専門コースにおける授業内容の充実、ピアノ技能の習得、保育検定取得率及び進学率向上をめざす。
 ※保育関連授業アンケートの肯定的回答率80%、バイエル習得率100%、保育検定3・4級取得率80%、保育系大学・短大等への進学率100%をめざす。
- (2) 教員の授業力の向上、生徒の基礎学力の定着を図る。
 - ア 本校のめざす授業像である「わかる」「できる」「おもしろい」そして、規律ある授業を念頭に授業力の向上に取り組む。
 - イ 授業アンケートや教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、もって授業内容・指導方法の工夫・改善を図る。
 ※授業アンケートを年2回実施。授業公開週間（教員相互の授業見学・研究授業）を年3回（各学期1回）実施する。
 ※生徒の授業満足度の肯定的回答率について3年間で15%の向上をめざす。
- ウ 総合的な学習の時間「α」（1年次2単位）において、自己の学力に応じた学習に取り組ませること等で基礎学力の定着を図るとともにきめ細やかな学習指導体制を確保する。
- (3) 進路指導に関する校内研修を通じて、教職員全体の理解を深めるとともに、3年間を見通した進路指導を実施する。
 - ア 生徒の希望する進路が実現できるよう基礎力診断テストを3年間経年実施することで自己理解力を高め、進路HRや進路ガイダンス、補習・講習等を組織的・計画的に取り組む。
 ※就職内定率100%を継続実施するとともに、進路未定率を現在の20%から3年間で10%に縮小をめざす。
 ※学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率について3年間で15%の向上をめざす。

2 生徒指導の充実（規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ）

- (1) 全教職員が一丸となった生徒指導の推進により、基本的な生活習慣の定着・改善を図る。
 - ア 頭髪指導の継続・強化を図り、全員染色等なしを継続させる。
 - イ 服装指導の継続・強化を図り、服装違反者なしを実現する。
 - ウ 遅刻指導を継続実施する。※登校遅刻数について3年間で15%の減少をめざす。
 - エ 授業規律（授業遅刻、中抜けをはじめ、私語や立ち歩き、机上に不要物を置かせない等）を確保し、一時間一時間の授業を大切にさせることで基礎学力の定着を図り、中退・留年を防止する。
 ※授業遅刻、中抜けを3年間で15%の減少をめざす。※中退・留年者数について3年間で15%の減少をめざす。
- オ 月間教育目標を策定し、全校集会を月1回実施する。※3年間継続実施する。

3 地域連携と開かれた学校づくり

- (1) 地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。
 - ア 学校行事の活性化を図り、保護者・外部来場者数の向上を図る。※学校行事の保護者・外部来場者参加率について3年間で15%の向上をめざす。
 - イ 生徒会活動及び部活動の活性化を図り、入部率を高めるとともに地元小・中学校との部活動連携を推進する。※入部率について3年間で15%の向上をめざす。
 - ウ 地域連携を推進する。※地域連携交流数を年5回以上継続実施する。
- (2) 中高連携の推進（中学校との連携を密にし、不本意入学を防止する）
 - ア 生徒の出身中学校全校訪問を実施する。 ※年4回継続実施する。
 - イ 中高連絡会の定期的開催 ※年3回継続実施する。
- (3) 開かれた学校づくりの推進
 - ア 広報活動の積極的展開 ※メールマガジンの保護者登録数について3年間で15%の向上をめざす。※ホームページの充実を図る。（更新回数、週1回以上）
 - イ 学校教育自己診断の分析と学校改善方策（評価結果を学校協議会やPTAにおいて協議し、次年度の学校改善に反映させる。）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
教職員アンケート ・「校長は教育理念や学校経営についての考えを明らかにしている」の質問に対しては、ほぼ全員 94.8%が肯定的な回答をしている。また、「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」は 92.9%と非常に高く、学校全体が課題を共有し、その課題解決に向けて取り組んでいる実態が数値となって現れている。 ・「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」の肯定的な回答率は 87.7%、「生徒指導において、家庭と連携ができてい」は 91.2%、「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」は 89.5%であった。これは、全教職員が一致協力して生徒の指導にあたっていることを示しており、今後も全教職員が一	＊実施日 第一回（6/25）第二回（11/26）第三回（1/28） ＊委員構成（敬称略） 松本剛（会長、地元中学校長）、藪田一子（副会長、大学名誉教授）、 花田純子（地元民生委員児童委員協議会委員）、山畑雅明（地元中学進路指導主事）、 池尻豊美（PTA、OB会副会長）、三浦貴子（PTA会長） 第1回（6/25） ○平成 26 年度学校経営計画についての意見 ・授業見学を実施。昨年に比べ一段と生徒が落ち着いており、教室や階段もきれいだ と、日頃の地道な指導に対して高い評価を得た。 ・金髪や授業中にあぐらをかく生徒がいなくなり、挨拶をしてくれる生徒が増加した

<p>丸となって生徒の指導にあたっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では「わかる」「できる」「おもしろい」そして、規律ある授業をめざし、授業力の向上に取り組んでおり、「学習意欲に応じて、学習指導や内容に工夫している」の肯定的な回答率は93.0%、「少人数指導を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に努めている」は93.0%であった。教員の授業改善に対する意識が高まっており、今後も授業公開週間(年3回)での全教員による授業公開を中心に教員相互の授業見学や研究授業・研究協議、授業アンケートの検証などにより、授業充実会議を中心に授業改善を推進していく。 ・「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定的回答率は87.7%であり、3年間を見通したキャリア教育が定着してきている。今後も「生徒の希望する進路が実現できる学校」をめざし、組織的・計画的にキャリア教育に取り組んでいく。 <p>生徒アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業はわかりやすく楽しい」への肯定的な回答は43.0%(昨年比5.0%増)、「少人数展開の授業はわかりやすい」への肯定的な回答は60.7%。また、12月実施の授業アンケートにおける「授業に興味・関心を持つことができたと感じている」の肯定的回答率は79.3%であった。今後も授業改善に全力で取り組んでいく。 ・「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答率は63.4%(前年比2.8%増)、「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」への肯定的回答率は61.8%(前年比4.2%増)であった。今後も、文化祭・体育祭・クラブ活動の活性化を図り、これらの数値をさらに高めていく。 ・強化した生活指導は着実に定着してきており、「学校生活への指導に納得できる」への肯定的評価は、学年が上がるごとに高くなっている。次年度は服装指導の強化と定着に取り組んでいく。 ・授業での地域との交流、生徒会や吹奏楽部の地域貢献活動を生徒自身が自覚するようになってきた。今後も生徒の自主的な活動の機会を増やし、自己肯定感をさらに高めていく。 <p>保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の回答数が308から461に、回答率は50.5%から68.3%に大幅に増加した。 ・「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」の肯定的回答率は73.1%(昨年比3.3%増)、「学校は教育情報について、提供の努力をしている」は77.2%(昨年比5.4%増)、「テストの点数だけでなくいろいろな面から学習評価を行っている」は76.1%(昨年比2.8%増)、「子どもは学校行事に積極的に参加している」は80.7%(昨年比6.0%増)となっており、学校に対する保護者の信頼は年々高まっている。 ・特に「学校は保護者の相談に適切に応じている」は76.8%、「学校では、子どもの個人情報を守られている」は86.4%が肯定的回答をしている。 ・その他、「学校は保護者の願いにこたえている」、「進路や職業などについて適切な指導を行っている」、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」、「子どもに関する個人情報を守られている」、「学校の生徒指導の方針に共感できる」についても6～8割の肯定的回答を得た。 ・これらのことから、学校と家庭がより一層の連携を図り、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を展開していくことが重要であることを再確認できた。今後も「生徒の夢が実現できる学校」をめざし、学校の教育活動を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> と、粘り強い生徒指導の成果に対して高い評価を得た。 ・授業力の向上について、公開授業週間の期間中に最低1回は授業見学するなど、最低ラインを設定してはどうかという意見をいただいた。 ・保育専門コースについては、独自のバイエル・グレード表をつかって、個人指導を行っていることも高く評価された。認定証を発行するなど工夫をすれば、やる気が出てくるのではないかと指摘があった。 ・中学生体験授業の実施、中学校の土曜授業参への参加、町内のいろんな行事への参加など、地域から愛され信頼される学校づくりに頑張っていると高い評価を得た。 <p>第2回(11/26)</p> <p>○平成26年度学校経営計画進捗状況説明</p> <p>○学校教育自己診断アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの回収率が前年度に比べて大幅に増加しており、しかも保護者の評価が各項目ともに高いこと。生徒も保護者も、学年が上がるにつれて肯定的回答の割合が高くなっていること。これは島本高校への愛着が増しており、島本高校の方針が浸透してきたため評価が高くなっていると考えられる。委員から教職員の日々の努力に対して高い評価を得た。 ○学校経営計画(確かな学力の育成と進路指導の充実)についての意見 ・自宅にピアノがない生徒にとって学校でピアノの練習ができる取組みは、素晴らしいと高い評価を得た。幼児教育は人間形成に関わる仕事であり、基礎学力が不可欠である。基礎学力の充実に力を入れて欲しいとの要望があった。 ・キャリア演習の授業では、授業の冒頭で本時のねらいやスケジュールを説明していたのがよかった。ICTをもっと活用したり、グループワークを積極的に取り入れるなど、授業内容・指導方法の工夫を図って欲しいという要望があった。 ○学校経営計画(生徒指導の充実)についての意見 ・前回の授業見学に比べ、私語をする生徒や寝ている生徒が減っており、生徒の授業に対する意識が向上してきていると、教職員の日々の指導に対して高い評価を得た。 ○学校経営計画(地域連携と開かれた学校づくり)についての意見 ・地域でのPTAや生徒による清掃活動、吹奏楽部の演奏参加、保育所での実習や発表会等、地域との交流、地元2中学対象の体験入学について高い評価を得た。 <p>第3回(1/28)</p> <p>○平成26年度学校経営計画達成状況説明</p> <p>○学校経営計画(確かな学力の育成と進路指導の充実)についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回目の授業見学を行い、生徒が落ち着き、教師と生徒の信頼関係が築けていることに高い評価を得た。今後も授業改善に取り組んでもらいたいという要望があった。 ○学校経営計画(生徒指導の充実)についての意見 ・登校遅刻、授業遅刻、欠課等の数値減の説明・報告から、島本高校の生徒指導の仕組みと指導の仕方について高い評価を得た。 ○学校経営計画(地域連携と開かれた学校づくり)についての意見 ・学校が活性化していることがよくわかった。今後は文化祭・体育祭等、生徒会活動をはじめとする生徒の活動を地域に発信して欲しいという要望があった。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成と進路指導の充実	(1) 新学習指導要領を踏まえ、特色づくりを推進する教育課程を編成・実施する。 ア 教育課程の改善 イ 保育専門コースの充実 (2) 教員の授業力の向上、生徒の基礎学力の定着を図る。	ア・生徒の実態を踏まえ、保護者・生徒の希望する進路がより実現できる(出口のみえる)教育課程を編成・実施する。 イ・保育専門コースにおける授業内容の充実、ピアノ技能の習得、保育検定取得率及び進学率向上をめざす。	イ・保育関連授業アンケートの肯定的回答率75% ・本校独自のバイエルグレード表によるバイエル習得率100%(昨年度67%) ・保育検定3・4級取得率70% ・保育専門コース受講者の保育系大学・短大等への進学率100%(昨年度67%)	ア・数学I(3単位)と英語BE(ベーシックイングリッシュ)I(2単位)を習熟度別授業で実施。4月10日の課題考査の結果及び生徒のアンケート結果に基づき習熟度別のクラス分けを行った。 ・これまでは、得意な生徒ばかりが授業中も評価され、苦手な生徒は積極的に授業に参加しない傾向にあったが、習熟度別授業により、応用のクラスはより集中力が増し深い内容を扱った。基礎クラスの生徒も、特に英語では平常点の平均が標準クラス18.9点、基礎クラス17.8点と授業に参加しようという姿勢が見られるようになった。 ・習熟度別授業により、基礎クラスは基本の問題を丁寧に学習することにより、わかる、解けることを体感でき、基礎学力の定着に繋がった。応用クラスは教科書だけでなく、補充プリントを使用し問題を多数解かせることで応用力をつけることができた。(○) イ・保育専門コース会議が中心となり、授業で学んだことを保育実習で実際に活用できているかPDCAサイクルをまわし検証。できなかったことを次の授業で取り組ませた。 ・6月の保育関連授業アンケートの結果から肯定的回答率は、子どもの発達と保育98.8%、ピアノ演習I90.2%、ピアノ演習II100%、子どもと表現79.2%、造形表現100%、ペン字表現100%、幼児体育100%、保育課題研究100%であった。昨年6月と比較すると92.9%から96.0%へ3.1ポイント向上した。 ・12月の結果は、子どもの発達と保育81.6%、ピアノ演習I89.1%、ピアノ演習II90.0%、子どもと表現81.6%、造形表現100%、ペン字表現100%、幼児体育100%、保育課題研究90.9%であった。昨年12月と比較すると86.9%から93.3%へ6.4ポイント向上した。 ・上記のとおり、目標値である保育関連授業アンケートの肯定的回答率75%以上を達成することができた。(○) ・ピアノ技能の向上について、レッスンカードのバイエル課題は全員合格した。グレード表は個人の目標別に到達点を設定し、テストを実施。補講等も行い全員合格した。結果、目標のバイエル習得率100%を達成とすることができた。(○) ・授業で学んだことを生かして取り組んだ保育検定の取得率は、4級36人/36人中、3

府立島本高等学校

<p>ウ 授業力の向上</p>	<p>ウ・本校のめざす授業像である「わかる」「できる」「おもしろい」そして、規律ある授業を念頭に授業力の向上に取り組む。 ・授業アンケートや教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、もって授業内容・指導方法の工夫・改善を図る。 ・課題を抱えた生徒を引きつける魅力ある授業づくりのための指導法研究等、教員間でノウハウの蓄積と共有を図る。 ・生徒の授業満足度の向上を図る。</p>	<p>ウ・授業アンケートの年2回実施。 ・授業公開週間(教員相互の授業見学・研究授業)を年3回設ける。 ・生徒の授業満足度の肯定的回答率年間5%増。</p>	<p>級11人/11人中と100%となり、目標の取得率70%を達成することができた。(○) ・保育専門コース受講者の保育系大学・短大等への進学率は、91.0%であった。(△) 【今後の課題】 ・今後も保育専門コース会議が中心となり保育実習を軸にPDCAサイクルをまわし、授業等を検証、改善していく。 ・今後、保育系専門科目の授業内容の充実、高大連携の一層の推進に取り組み、進路実績を着実に上げる。 ウ・授業充実会議を9回開催し、授業改善を次のとおり行った。 ・1・2学期の公開授業週間において全教員の授業を公開。外部来場者は高校教員13、中学校教員13、保護者19、地域の方7、計52名であった。 ・公開授業週間に教員相互の授業見学を実施。授業観察シートを活用して良い点、課題等を担当教員と協議し、指導法等について、ノウハウの蓄積と共有を教員間で図ることができた。 ・公開授業週間に重点公開授業を各5回実施。外部からも参加いただき、研究協議を深めた。 ・6月と12月に授業アンケートを行うとともに、授業アンケートを活用した授業改善を実施した。教科の現状、課題を洗い出し、課題解決の仕方を協議した。 ・3学期にも公開授業週間(1/28~2/4)を柱に授業の検証・改善に取り組む。 ・上記取組みの評価として、生徒の授業アンケートにおける授業満足度の肯定的回答率は6月実施80.6%(昨年6月、78.2%)、12月実施82.2%(昨年12月、80.6%)であった。(△) 【今後の課題】 ・学校教育自己診断(教員)の回答から、授業に関する質問項目において、「生徒の学習意欲に応じて学習指導の方法や内容について工夫している」の肯定的回答、対前年度比86.5→93.0%と6.5%増、「教職員は生徒の意見をよく聞いている」の肯定的回答、対前年度比86.6%→91.3%と4.7%増、「各教科において教材の精選・工夫を行っている」の肯定的回答は91.2%、「指導方法の工夫・改善に努めている」93.0%であり、教員相互の授業見学や研究授業などの取組みにより教員の意識が高まっている。今後、授業改善に全力で取り組んでいく。 ・アンケート結果の教科内分析に基づいて、授業の工夫・改善を行った。今後も、授業アンケート分析を実施し、授業改善に役立てていく。 エ・総合的な学習の時間に外部受験産業の教材を導入。学び直しの時間と位置付け、教員を複数配置して授業を行い、生徒たちは意欲的に学習に取り組んでいる。生徒の習熟度に応じて課題に取り組めるよう工夫改善を図った。生徒たちは意欲的に学習に取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。(○)</p> <p>オ・1年7クラス募集を8クラス展開(担任を自前で1名抛出)とし、35名程度の学級編成できめの細かい指導を実施できた。(○) ・数学Ⅰ(3単位)、英語BE(バイシクイングリッシュ)Ⅰ(2単位)で習熟度別少人数展開授業を実施した。(○) ・少人数展開授業を次の科目で実施し、きめの細かい教育を実現できた。数学Ⅰ、(学)バイシクイングリッシュⅠ、数学演習、物理、化学、生物、日本史A、数学Ⅲ、物理基礎、生物基礎、ピアノ演習Ⅰ・Ⅱ、(学)オーラル表現、(学)漢字演習、(学)ペン字表現、(学)情報演習、(学)キャリア演習、(学)メディア表現演習(学)、音楽Ⅲ、美術Ⅲ、書道Ⅲ、(学)生活に生かす書、(学)マルチメディアデザイン、(学)フードデザイン。</p> <p>カ・2学期末時点の進路決定者は次のとおりである。 ・大学進学36名、短大5名、専門学校55名、就職41名、その他35名、合計171名。 ・進路HRや進路講習等(課業日の早朝や放課後、長期休業期間)を組織的・計画的に実施できた。実施状況は次のとおりである。 毎週実施：3年国語大学受験(金7限)30名、国語看護医療(金7限)11名、数学(火0限)2名、日本史大学受験(水7限)2名、2年数学(水7限)3名、英語(火7限)3名。 夏期講習：3年国語大学受験面接対策39名、国語大学受験小論文30名、国語看護医療志望理由8名、国語看護医療小論文7名、英語大学受験3名、英検対策3名、日本史大学受験1名、英語私大入試12名、数学私大入試3名、数学センター入試3名、世界史センター入試1名、就職講習志望理由48名、就職面接練習48名、進学面接練習30名。 ・補習・講習数を課業日の早朝・放課後に6科目51名、長期休業期間は14科目236名受講した。これらの実施により生徒・保護者の希望する進路実現に繋げることができた。(○) ・進路ウィークは、2・3年生を対象に4月の第1回には「面接対策講座」に大学・短大の部69名、専門学校の部44名。就職の部54名。「専門学校説明会・受験勉強の仕方」31名、「大学志望者対象講演会(受験勉強の仕方)」44名参加。 ・6月の第2回には、「看護医療系学校講演会」15名、「大学進学希望者説明会」45名、「進学・面接対策講座」大学・短大の部25名、看護系6名、保育系18名、就職57名、専門学校21名。「小論文対策講座」一般向け15名、看護系7名、「センター試験」説明会2名、「指定校推薦および学費」説明会37組(生徒・保護者)が参加した。 ・2学期は1・2年生も対象に「進学講座(大学・短大・専門学校)」、「自分の学びたい学問・分野をみつけよう」、「大学・短大・専門学校の資料配付会」「就職・公務員セミナー」「就職セミナー高卒就職の現実を知る」「保育・幼児教育説明会(現場の声を聴く)」「看護・医療系説明会」などを実施できた。参加者は大学進学関係46名、短大進学関係43名。専門学校関係42名、就職関係53名であった。(○) ・進路ウィーク受講者にアンケートを実施。「進路を考えるきっかけになりましたか」の肯定的回答率は1学期が98.7%、2学期が98.2%であった。目標の90%を上回ることができた。(○) ・基礎力診断テストを8月末と1月に実施した。分析会を9月25日に実施した。それらを基に次年度の指導方針を検討する。(○) ・就職希望者には、水曜6限にキャリア演習・木曜の放課後7限に就職講習を実施した。内容は基礎学力の養成、面接・小論文指導等である。 夏休みには志望動機を考える講座を1人3回、面接指導を1人3回、9月に入って上級面</p>
<p>エ 基礎学力の定着</p>	<p>エ・総合的な学習の時間「α」(1年2単位)を学び直しの時間と位置付け、外部受験産業の教材を導入し、自己の学力に応じた学習に取り組ませることで基礎学力の定着を図る。</p>	<p>オ・7クラスを8クラス展開とした少人数学級編成の実施。</p>	<p>オ・1年生7クラスを8クラス展開とし、30~35人の少人数学級編成を実施する。 ・少人数加配を配置された教科において、少人数展開授業等を実施する。 ・英数においては、習熟度別授業を実施する。 カ・生徒の希望する進路が実現できるよう、基礎力診断テストを3年間経年実施することで自己理解力を高め、進路HRやガイダンス、補習・講習等を組織的・計画的に取り組む。 ・コース制選択へ向けてのガイダンス機能を充実する。 ・教職員の就職指導体制を強化し、就職内定率100%を継続実施するとともに、進路未定率を減少させる。 ・学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率向上をめざす。</p>
<p>オ きめ細やかな学習指導体制(3)進路指導に関する校内研修を通じて、教職員全体の理解を深めるとともに、3年間を見通した進路指導を実施する。</p>	<p>オ・1年生7クラスを8クラス展開とし、30~35人の少人数学級編成を実施する。 ・少人数加配を配置された教科において、少人数展開授業等を実施する。 ・英数においては、習熟度別授業を実施する。 カ・生徒の希望する進路が実現できるよう、基礎力診断テストを3年間経年実施することで自己理解力を高め、進路HRやガイダンス、補習・講習等を組織的・計画的に取り組む。 ・コース制選択へ向けてのガイダンス機能を充実する。 ・教職員の就職指導体制を強化し、就職内定率100%を継続実施するとともに、進路未定率を減少させる。 ・学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率向上をめざす。</p>	<p>カ・就職内定率100%の継続実施。 ・進路未定率を現在の27.2%から20%に縮小をめざす。 ・学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率を年間5%増。</p>	<p>カ・2学期末時点の進路決定者は次のとおりである。 ・大学進学36名、短大5名、専門学校55名、就職41名、その他35名、合計171名。 ・進路HRや進路講習等(課業日の早朝や放課後、長期休業期間)を組織的・計画的に実施できた。実施状況は次のとおりである。 毎週実施：3年国語大学受験(金7限)30名、国語看護医療(金7限)11名、数学(火0限)2名、日本史大学受験(水7限)2名、2年数学(水7限)3名、英語(火7限)3名。 夏期講習：3年国語大学受験面接対策39名、国語大学受験小論文30名、国語看護医療志望理由8名、国語看護医療小論文7名、英語大学受験3名、英検対策3名、日本史大学受験1名、英語私大入試12名、数学私大入試3名、数学センター入試3名、世界史センター入試1名、就職講習志望理由48名、就職面接練習48名、進学面接練習30名。 ・補習・講習数を課業日の早朝・放課後に6科目51名、長期休業期間は14科目236名受講した。これらの実施により生徒・保護者の希望する進路実現に繋げることができた。(○) ・進路ウィークは、2・3年生を対象に4月の第1回には「面接対策講座」に大学・短大の部69名、専門学校の部44名。就職の部54名。「専門学校説明会・受験勉強の仕方」31名、「大学志望者対象講演会(受験勉強の仕方)」44名参加。 ・6月の第2回には、「看護医療系学校講演会」15名、「大学進学希望者説明会」45名、「進学・面接対策講座」大学・短大の部25名、看護系6名、保育系18名、就職57名、専門学校21名。「小論文対策講座」一般向け15名、看護系7名、「センター試験」説明会2名、「指定校推薦および学費」説明会37組(生徒・保護者)が参加した。 ・2学期は1・2年生も対象に「進学講座(大学・短大・専門学校)」、「自分の学びたい学問・分野をみつけよう」、「大学・短大・専門学校の資料配付会」「就職・公務員セミナー」「就職セミナー高卒就職の現実を知る」「保育・幼児教育説明会(現場の声を聴く)」「看護・医療系説明会」などを実施できた。参加者は大学進学関係46名、短大進学関係43名。専門学校関係42名、就職関係53名であった。(○) ・進路ウィーク受講者にアンケートを実施。「進路を考えるきっかけになりましたか」の肯定的回答率は1学期が98.7%、2学期が98.2%であった。目標の90%を上回ることができた。(○) ・基礎力診断テストを8月末と1月に実施した。分析会を9月25日に実施した。それらを基に次年度の指導方針を検討する。(○) ・就職希望者には、水曜6限にキャリア演習・木曜の放課後7限に就職講習を実施した。内容は基礎学力の養成、面接・小論文指導等である。 夏休みには志望動機を考える講座を1人3回、面接指導を1人3回、9月に入って上級面</p>
<p>カ 進路指導の充実</p>	<p>カ・生徒の希望する進路が実現できるよう、基礎力診断テストを3年間経年実施することで自己理解力を高め、進路HRやガイダンス、補習・講習等を組織的・計画的に取り組む。 ・コース制選択へ向けてのガイダンス機能を充実する。 ・教職員の就職指導体制を強化し、就職内定率100%を継続実施するとともに、進路未定率を減少させる。 ・学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率向上をめざす。</p>	<p>カ・就職内定率100%の継続実施。 ・進路未定率を現在の27.2%から20%に縮小をめざす。 ・学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率を年間5%増。</p>	<p>カ・2学期末時点の進路決定者は次のとおりである。 ・大学進学36名、短大5名、専門学校55名、就職41名、その他35名、合計171名。 ・進路HRや進路講習等(課業日の早朝や放課後、長期休業期間)を組織的・計画的に実施できた。実施状況は次のとおりである。 毎週実施：3年国語大学受験(金7限)30名、国語看護医療(金7限)11名、数学(火0限)2名、日本史大学受験(水7限)2名、2年数学(水7限)3名、英語(火7限)3名。 夏期講習：3年国語大学受験面接対策39名、国語大学受験小論文30名、国語看護医療志望理由8名、国語看護医療小論文7名、英語大学受験3名、英検対策3名、日本史大学受験1名、英語私大入試12名、数学私大入試3名、数学センター入試3名、世界史センター入試1名、就職講習志望理由48名、就職面接練習48名、進学面接練習30名。 ・補習・講習数を課業日の早朝・放課後に6科目51名、長期休業期間は14科目236名受講した。これらの実施により生徒・保護者の希望する進路実現に繋げることができた。(○) ・進路ウィークは、2・3年生を対象に4月の第1回には「面接対策講座」に大学・短大の部69名、専門学校の部44名。就職の部54名。「専門学校説明会・受験勉強の仕方」31名、「大学志望者対象講演会(受験勉強の仕方)」44名参加。 ・6月の第2回には、「看護医療系学校講演会」15名、「大学進学希望者説明会」45名、「進学・面接対策講座」大学・短大の部25名、看護系6名、保育系18名、就職57名、専門学校21名。「小論文対策講座」一般向け15名、看護系7名、「センター試験」説明会2名、「指定校推薦および学費」説明会37組(生徒・保護者)が参加した。 ・2学期は1・2年生も対象に「進学講座(大学・短大・専門学校)」、「自分の学びたい学問・分野をみつけよう」、「大学・短大・専門学校の資料配付会」「就職・公務員セミナー」「就職セミナー高卒就職の現実を知る」「保育・幼児教育説明会(現場の声を聴く)」「看護・医療系説明会」などを実施できた。参加者は大学進学関係46名、短大進学関係43名。専門学校関係42名、就職関係53名であった。(○) ・進路ウィーク受講者にアンケートを実施。「進路を考えるきっかけになりましたか」の肯定的回答率は1学期が98.7%、2学期が98.2%であった。目標の90%を上回ることができた。(○) ・基礎力診断テストを8月末と1月に実施した。分析会を9月25日に実施した。それらを基に次年度の指導方針を検討する。(○) ・就職希望者には、水曜6限にキャリア演習・木曜の放課後7限に就職講習を実施した。内容は基礎学力の養成、面接・小論文指導等である。 夏休みには志望動機を考える講座を1人3回、面接指導を1人3回、9月に入って上級面</p>

府立島本高等学校

	<p>キ 人権教育の推進</p>	<p>キ・人権HRを年度当初に計画し、生徒をどう育てるか協議のうえ、組織的・計画的に人権教育を実施する。</p>	<p>ク・公開展示・公開発表会を年4回継続実施する。</p>	<p>接指導を1人2回全員に受講させ実力を養った。 2学期終了時点での就職内定率は97.3%(41人/42人中)である。就職内定率100%となるよう引き続き努力を続けていく。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の進路未定率は27.2%であった。上記進路決定状況の「その他」が35名いるが、進学希望者14名は進路先が順次決定する見込みである。従って最終の進路未定者は約20名、進路未定率は12%前後となる見込み。目標の20%を大幅に下回り達成できそうである。さらに未定者が少なくなるよう個別の面談を繰り返し、進路未定者が限りなく0に近づくよう努力を続けていく。(○) ・学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定的回答率は、対前年度比67.2%から74.8%と7.6%増であった。目標の5%増を上回った。(○) キ・全校一斉人権学習として、7月に「日本社会を生きる世界人～苦しみの中にもきっと幸せがある～」と題し、具志アンデルソン飛雄馬氏による講演会を実施。事後指導としてアンケートを実施。結果を生徒に返し、今後の生き方を考えさせた。 ・人権教育を意図的・計画的に実施することができた。人権HRについて、1年生は、「言葉について考える。パートⅡ」、「携帯(ライン)でのいじめについて考えよう」と題して学習した。2年生は、「人権差別について」、修学旅行「沖縄と平和」と題して平和学習を行った。3年生は、「就職、進学時の人権侵害を許さない取組み」、「言葉について考える」、「3年間のまとめ」を行った。 さらに、性感染症や薬物乱用防止の講演会、啓発HRを行い、自尊感情を大切に、自他を尊重する態度を養った。(○) ク・授業作品(書道・美術)の公開展示をJR島本駅改札口前で6月、9月、11月、12月の4回実施した。(○) ・11月にはケリアホールで芸術祭を実施し、音楽発表会ならびに書道・美術の作品展示を行った。(○) ・書道・美術の作品を廊下に展示し、定期的に作品を入れ替えることにより、授業成果を披露する取組みを継続して実施できた。(○)
<p>ク 学習成果の公表による授業達成感の体得と表現力の向上</p>		<p>ク・各種検定の実施および資格取得。 ・授業での生徒作品の公開展示・公開発表を積極的に行う。</p>		

<p>生徒指導の充実（規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ）</p>	<p>(1) 教職員のベクトルを合わせる (全教職員が一丸となった生徒指導の推進により、基本的な生活習慣の定着・改善を図る) ア 頭髪指導の継続・強化 イ 服装指導の継続・強化</p>	<p>(1) 全教職員による課題の共有化を図り、統一した指導方針のもとづく生徒指導体制を構築し、生徒の規範意識を高める。 ア・全員染色等なしを継続させる。 ・頭髪に染色等をおこなった生徒には、保護者と緊密に連絡を取り、改善されるまでねばり強く指導する。 ・段階を追った指導を行い、違反を繰り返す者には特別指導を実施する。 イ 服装指導を継続・強化する。セーター・カーディガン・ベストの色指定及び学校指定セーター類の改善に取り組む。</p>	<p>ア・全員染色等なし、服装違反者なしをめざす。 イ・セーター・カーディガン・ベストの色指定外の預かり指導の実施。</p>	<p>ア・頭髪指導は全教職員による日々の指導、毎月曜放課後の頭髪指導、毎月の全校集会時の指導、定期考査時の指導により、保護者と緊密に連絡を取り、改善されるまで粘り強く指導することで、金髪・茶髪なしを維持できた。(○) イ・服装指導は、日々の指導、毎月の全校集会時の指導、定期考査時の指導等により指導の徹底を図っており、ここ数年、制服着用（ブレザー、カッターシャツ、スカート、ズボン）は定着している。今年度の重点課題として、カーディガン・セーター・ベストの統一した指導方針を次のとおり策定できた。 ・重点課題として特にセーター・カーディガン・ベストの色指定を生徒の意見も踏まえ紺とチャコールグレーにした。 ・制服業者3社によるプレゼンの結果、業者が決まり、次年度から新1年生全員に学校指定のセーター・カーディガン・ベストの内どれか1つを必ず購入させることに決めた。また、新2・3年生も希望者には学校指定を購入させる。あるいは色指定で無地のものを着用させることにした。それ以外のものは預かり指導とする。なお、1・2年生だけとなる2月から新しい服装指導を実施する。(○) ウ・登校遅刻は2学期末時点で対前年度比10.1%減（目標値5%減）とすることができた。これは、2学期から指導を強化した結果である。(◎)（参考） ・平成23年度からの遅刻指導等の改革で学校が大きく変わった。この3年間（平成23～25年度）で、登校遅刻56.6%減、授業遅刻79.4%減、欠課33.8%減できた。 ・本指導方法が3年を経過したことから、2学期から登校遅刻の指導方法をさらに強化する指導体制に改めた。具体的には、これまで5の倍数で指導してきたが、2学期からは4の倍数で指導する。すなわち遅刻4回で担任指導、8回で学年指導、12回で生徒指導部長厳重注意、16回で校長訓告、20回で停学とする。なお、早朝登校を一定期間実施すれば、生指遅刻を一旦0にリセットする回復措置を取る。(○) エ・授業規律を確立させるため、廊下や正門当番等を配置し、何かあれば迅速に対応した。 ・中抜け指導もうまく機能しており、2学期終了時点で授業遅刻は対前年比31.7%減（目標値5%減）、教科の欠課時数は24.6%減（目標値5%減）することができた。今後も本人への指導とともに家庭訪問等、家庭連絡を密にする。学校と家庭が連携して、生活習慣を確立させるように取り組む。(◎)</p>
	<p>ウ 遅刻指導の継続実施</p>	<p>ウ・教職員の共通理解を図り、全校一斉の遅刻指導（段階的指導）により、時間を守ることの大切さを徹底し、遅刻を許さない校風を確立する。 ・段階を追った指導を行い、遅刻がたび重なる者には、特別指導を実施する。</p>	<p>ウ・登校遅刻の年間5%減（昨年度の登校遅刻11074）</p>	<p>ウ・登校遅刻は2学期末時点で対前年度比10.1%減（目標値5%減）とすることができた。これは、2学期から指導を強化した結果である。(◎)（参考） ・平成23年度からの遅刻指導等の改革で学校が大きく変わった。この3年間（平成23～25年度）で、登校遅刻56.6%減、授業遅刻79.4%減、欠課33.8%減できた。 ・本指導方法が3年を経過したことから、2学期から登校遅刻の指導方法をさらに強化する指導体制に改めた。具体的には、これまで5の倍数で指導してきたが、2学期からは4の倍数で指導する。すなわち遅刻4回で担任指導、8回で学年指導、12回で生徒指導部長厳重注意、16回で校長訓告、20回で停学とする。なお、早朝登校を一定期間実施すれば、生指遅刻を一旦0にリセットする回復措置を取る。(○) エ・授業規律を確立させるため、廊下や正門当番等を配置し、何かあれば迅速に対応した。 ・中抜け指導もうまく機能しており、2学期終了時点で授業遅刻は対前年比31.7%減（目標値5%減）、教科の欠課時数は24.6%減（目標値5%減）することができた。今後も本人への指導とともに家庭訪問等、家庭連絡を密にする。学校と家庭が連携して、生活習慣を確立させるように取り組む。(◎)</p>
	<p>エ 授業規律の確立</p>	<p>エ・授業遅刻、中抜けの減少をめざす。 ・私語や立ち歩き、机上に不要物を置かせない等、授業規律の確保に努める。 ・言葉づかいをはじめとするマナー指導の徹底を図る。 ・校門指導、廊下当番による校内体制の実施。</p>	<p>エ・授業遅刻、中抜けの年間5%減（昨年度の授業遅刻7059）</p>	<p>エ・授業規律を確立させるため、廊下や正門当番等を配置し、何かあれば迅速に対応した。 ・中抜け指導もうまく機能しており、2学期終了時点で授業遅刻は対前年比31.7%減（目標値5%減）、教科の欠課時数は24.6%減（目標値5%減）することができた。今後も本人への指導とともに家庭訪問等、家庭連絡を密にする。学校と家庭が連携して、生活習慣を確立させるように取り組む。(◎)</p>
	<p>オ 中途退学者等の減少</p>	<p>オ・授業規律を確立し、授業を大切にさせることで基礎学力の定着を図り、中退・留年を防止する。 ・担任、教科担当が連携して生徒の出席状況を把握し、家庭との連絡を密にする。（生徒支援委員会、年35回開催） ・出身中学校との連携に努める。（中学校訪問、中高連絡会） ・当該生徒の状況を把握し、転学等、高校卒業資格を必要とする生徒の進路実現を支援する。 ・SCを有効活用し、心のケアを充実させる。 ・外部機関との連携を密にする。</p>	<p>オ・中退・留年者の年間5%減 ・生徒支援委員会の開催回数、年35回 ・外部機関との定期的連携（年3回）</p>	<p>オ・中退は33名（昨年度35名）であった。（参考） 近年の中退者数は平成23年度38名、24年度36名、25年度34名と年々減少している。 ・中退・留年は対前年比5%減少できる見込みである。理由は次の2点による。 ・上記のとおり、登校遅刻、授業遅刻、教科の欠課時数が大幅に減少していることによる。 ・基礎学力の定着を図る取組み（1年次担任を1名自前で増員し、7クラス募集を8クラスとしていること。少人数展開授業の実施。学び直しの時間の実施）が上手く機能していることによる。 ・SC等を有効活用した相談活動について、保健室での相談対応は年間で延べ324名。生徒相談室の相談件数（早朝・昼休み・放課後）は、延べ927名であった。(○) ・産業医・学校医による職員健康相談（16名）、生徒健康相談（176名）を毎月実施していただいた。SCによるカウンセリングも14回（生徒17名、保護者9名、教員99名）実施することができた。(○) ・生徒相談室を1年生のHR教室がある2階に設置し、早朝、昼休み及び放課後に生徒の教育相談にあたった結果、これまでの保健室内の生徒相談（学校医・SC等）機能と相まって、上記のごとく課題を抱えた生徒や要配慮生徒に対し、より充実した教育相談機能を構築できた。(○) 【今後の課題】 ・生徒指導面の強化により、生徒は落ち着き、現状チャイムが鳴れば全員教室に居る状況ができた。今後は更に授業改善に取り組んでいく。 ・欠席遅刻をなくし、一時間一時間の授業を大切にさせることで、保護者・生徒が要望するよう、学力向上を図り、中退・留年を防止し、希望する進路がより実現できるようにする。 ・学校教育自己診断（教員）の「教育相談体制の整備」の肯定的回答率は、89.5%と非常に高い数値を示している。今後は教育相談体制の充実に取り組む。 カ・月間教育目標を策定し、全校集会を毎月1回実施。全分掌を巻き込み、校長訓話と月間教育目標に係る分掌の話を経営的・計画的に実施することができた。(○) ・全校生徒が静かに聴く状況を作り、マイクなしで校長訓話を実施できた。(○) ・始業式、終業式には、校歌斉唱を行い、（昼休みには毎日校歌を流している）愛校心を養った。生徒は全員校歌を歌えるようになった。(○) 【今後の課題】 ・全校集会をさらに充実発展させ、生徒を誉め称える場、意欲を喚起する場とする。</p>
<p>カ 月間教育目標の策定および全校集会の毎月1回実施</p>	<p>カ・月間教育目標を策定し、全校集会を月1回実施する。 標語は次のとおり ・自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を誉め称える場とする。 4月「遅刻をなくそう」生徒生活部 5月「あいさつをしよう」進路指導部 6月「授業を大切にしよう」学習情報部 9月「文化祭を成功させよう」行事企画部 10月「読書のすすめ」行事企画部 11月「健康管理に努めよう」生徒生活部 1月「生活規律を守ろう」生徒生活部 2月「人権について考えよう」生徒支援会議</p>	<p>カ・毎月1回の全校集会を3年間継続実施する。 ・月間教育目標の策定と推進。</p>	<p>カ・月間教育目標を策定し、全校集会を毎月1回実施。全分掌を巻き込み、校長訓話と月間教育目標に係る分掌の話を経営的・計画的に実施することができた。(○) ・全校生徒が静かに聴く状況を作り、マイクなしで校長訓話を実施できた。(○) ・始業式、終業式には、校歌斉唱を行い、（昼休みには毎日校歌を流している）愛校心を養った。生徒は全員校歌を歌えるようになった。(○) 【今後の課題】 ・全校集会をさらに充実発展させ、生徒を誉め称える場、意欲を喚起する場とする。</p>	

府立島本高等学校

<p>地域連携と開かれた学校づくり</p>	<p>(1) 地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。 ア 学校行事の活性化 イ 生徒会活動・部活動の活性化 ウ 保護者・地域との信頼関係構築 (2) 中高連携の推進(中学校との連携を密にし、不本意入学を防止する) エ 中学校訪問の実施 オ 中高連絡会等の定期的開催 (2) 中高連携の推進(中学校との連携を密にし、不本意入学を防止する) (3) 開かれた学校づくりの推進 カ 広報活動の積極的展開</p>	<p>ア・学校行事の活性化を図る。 イ・生徒会活動及び部活動の活性化を図り、新年度当初の新1年生全員による体験入部の実施により、部活動への加入率を高める。 ウ・地域交流をさらに推進し、学校から地域への情報発信をより活発に行うなど、地域連携に取り組む。 エ・生徒の出身中学校全校訪問の実施。 オ・中高連絡会の定期的開催(年3回実施・対象地域の拡大を図る) カ・メールマガジンによる学校情報の伝達と保護者への登録の周知徹底を図る。 キ・毎年実施することで経年変化を把握し、学校改善に役立てる。</p>	<p>ア・学校行事への保護者・外部来場者参加率を年間5%増 イ・部活動加入率の年間5%増 ウ・地域連携交流数を年5回以上継続実施。 エ・生徒の出身中学校全校訪問を年4回継続実施 オ・中高連絡会の定期的開催(年3回継続実施) カ・メールマガジンの保護者登録者数を年間5%増 キ・評価結果を学校協議会やPTAにおいて協議し、次年度の学校改善に反映させる。</p>	<p>ア・学校行事(体育祭・文化祭)の保護者・外部来場者数は、体育祭(今年192名、昨年176名)9.1%増、文化祭(今年612名、昨年442名)38.5%増であった。(○) イ・部活動の加入率向上をめざし、新入生に部活動紹介や体験入部週間を設け、入部を促した。結果、昨年度の入部率33.1%(205名/619名)から今年度は40.9%(281名/687名)へ7.8%増加した。(○) ウ・1学期に第三地域住民委員会および民生委員児童委員協議会と学校・PTAが交流を図るとともに、島本一中・二中と本校のPTA役員による交流会を実施した。吹奏楽部の地域行事への演奏活動など地域連携を40回実施した。(○) エ・全教職員による中学校訪問を合格発表後に続き7月末にも実施した。また、7・8月には校長が島本町立、高槻市立、茨木市立、摂津市立の全中学校、さらに学区制撤廃対策として大阪市立の一部中学校、併せて43校を訪問した。(○) カ・メールマガジンの保護者への登録を、新入生には合格者登校時や入学式後に周知徹底した。またPTA総会や保護者懇談等でも周知を図った。さらに全教職員にも登録させている。結果、登録者数は平成25年度の428人から26年度の664人に55.1ポイント増することができた。今後も対策を立てて、さらに登録者数増を図る。(○) キ・10月に学校教育自己診断を実施した。3学期に自己診断結果を学校協議会やPTAにおいて協議し、次年度の学校改善に反映させる。(○)</p>
-----------------------	--	--	---	--